

注) この RCT は日本東洋医学会 EBM 委員会がその質を保証したものではありません

II メタアナリシス

9. 循環器系の疾患

文献

Yang Z, Zeng Y, Hu J, et al. Effectiveness of traditional herbal Kampo medicine Goreisan on chronic subdural hematoma recurrence: a meta-analysis. *Front Pharmacol.* 2024; 15: 1412190 eCollection 2024. PMID: 39076594, PMCID: PMC11284278, DOI: 10.3389/fphar.2024.1412190

1. 目的

慢性硬膜下血腫 (CSDH) の再発予防に対する五苓散の効果をメタアナリシスにより評価

2. データソース

PubMed、Cochrane ライブラリ、CNKI (China National Knowledge Infrastructure : 中国学術情報データベース) : 2024 年 3 月まで

3. 研究の選択

組入れ基準 : 1) 全患者が CSDH と診断されている、2) ランダム化比較試験、前向き研究、後ろ向き研究、3) 30 名以上の患者が組み入れられている、4) 主要評価項目を報告している

除外基準 : 18 歳未満の CSDH 患者

主要評価項目 : 再発*率、副次的評価項目 : 五苓散に関連する合併症

*研究期間中に新たに発症した症候性慢性硬膜下血腫と定義。

4. データの抽出

「慢性硬膜下血腫」「五苓散」「前向きコホート研究」「ランダム化比較試験」「後ろ向きコホート研究」などの検索語とそれらの Medical Subject Headings (MeSH) の組み合わせを用いて検索した。適格な引用文献をすべて評価し、組入れ基準を満たさない文献、重複文献は除外した。独立した 3 名がデータを抽出・要約・評価した。研究の質を評価するために、包含研究のバイアス評価ツールである Review Manager (ver.5.4) を使用した。

5. 主な結果

初期スクリーニングにより収集された 48 文献のうち、33 件は組入れ基準を満たさなかったか重複していたため除外された。残りの 15 件のうち、7 件は RCT、前向き／後ろ向き研究ではなかったため、最終的に 8 件の文献が本研究の対象となった。本研究に含まれた研究の出版年は 2013～2024 年であり、各試験の全患者が CSDH と診断されており、3 件は RCT、1 件は前向き研究、4 件は後ろ向き研究であった。

ネットワークメタアナリシスの結果、新たに診断された CSDH 患者において、五苓散による治療は標準的な脳神経外科治療と比較して再発率を有意に低下させた (オッズ比 0.72、95%信頼区間 0.61～0.86、 $P=0.00003$)。研究間の異質性は低く ($I^2=7.31\%$ 、 $P=0.40$)、また、出版バイアスがほとんどないことが示唆された。

6. 結論

五苓散は、CSDH の再発率低下に対し有効である。

7. 漢方的考察

なし

8. 論文中の安全性評価

合併症 (全身倦怠感、アレルギー反応、肝機能障害、間質性肺炎) の発現率に有意差はなかった。

9. Abstractor のコメント

本稿は、慢性硬膜下血腫という一般的に見られる疾患に対する五苓散治療の効果を検証した初めてのメタアナリシスである。この分析の結果、五苓散が再発率の低下に寄与することが示唆されており、今後の臨床において重要な意義を持つと考えられる。今後は、五苓散の最適な投与期間など、さらなる臨床研究の進展が期待される。

10. Abstractor and date

小池 宙 2025.9.2